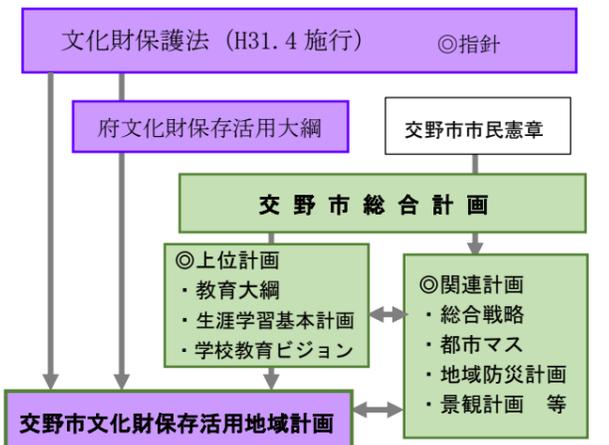


序章

<p>序1 計画作成の背景と目的</p> <p>■背景 平成31(2019)年4月に『文化財保護法』の一部が改正され、市町村は都道府県の大綱を勘案し、文化財の保存・活用に関する総合的な計画を策定することが制度化された。</p> <p>■目的 古くから多くの市民に愛されてきた「交野の良さ」(『交野市民憲章』の「和(自然と・文化と・人と)」)を活かし、本市のまちづくりや地域活性化、観光振興などの分野と連携を図りながら、文化財の保護(保存と活用)に取り組むことを目的とする。</p>	<p>序2 計画の対象</p> <p>本計画の対象は「交野の文化財」とその周辺環境を合わせた「交野の歴史文化」とする。</p> <div data-bbox="751 338 1344 890" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">「交野の歴史文化」</p> <p>「交野の文化財」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定文化財 文化財保護法等に規定される下記のもの (1)有形文化財 (4)記念物 (2)無形文化財 (5)文化的景観 (3)民俗文化財 (6)伝統的建造物群 ●未指定文化財 行政による保護措置が図られていないもの <p>「周辺環境」 「交野の文化財」を活用し、次世代へ継承する上で欠かせない文化財の材料製作・修理等の伝統的な保存技術や、さらには、生活文化や国民音楽など</p>  </div>	<p>序4 計画の位置付け</p>  <p>文化財保護法 (H31.4 施行) ◎指針</p> <p>府文化財保存活用大綱 交野市市民憲章</p> <p>交野市総合計画</p> <p>◎上位計画 ・教育大綱 ・生涯学習基本計画 ・学校教育ビジョン</p> <p>◎関連計画 ・総合戦略 ・都市マス ・地域防災計画 ・景観計画 等</p> <p>交野市文化財保存活用地域計画</p>
<p>序3 計画期間</p> <p>令和5(2023)年度～令和14(2032)年度の10年間 ※必要に応じて適宜見直し</p>	<p>序5 計画の策定体制と経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ●交野市文化財保存活用地域計画協議会(5回) ●市民アンケート(2,000人) ●パブコメ(1回) ●文化財審査員会(全2回) 他 	

第1章 交野市の成り立ち

<p>1-1 社会的環境</p> <p>■位置及び面積 本市は奈良県との境に位置し、大阪市、京都市及び奈良市を結ぶ三角形の重心付近に位置(面積:約25.55k㎡)</p> <p>■人口 令和2(2020)年の国勢調査の速報値で75,077人。 平成28年1月策定「交野市人口ビジョン」では、2060年に60,800人を目指すとする。</p> <p>■交通網 道路:第二京阪道路及び国道168号の広域幹線道路、府道等により市内外のネットワークを形成 鉄道:JR学研都市線、京阪電鉄交野線</p> <p>■景観 生駒山系の山稜と裾野に広がる田園景観や住宅等の市街地景観がほどよく共存する自然の豊かさが特徴</p> <p>■産業(製造業) 江戸時代から続く交野の酒造業2社や大正時代から続く歯ブラシ工場は現在も製造を行っている。織機やタオルを製作する工場は昭和40(1965)年頃まで旧集落に接して立地していたが、市街地の拡大に伴い廃業</p>	<p>1-2 自然環境</p> <p>■気候 気候は概ね温暖で、年平均の気温は15℃前後。風はときおり強い季節風が吹くが、概ね北東ないし西よりの風が吹き、年平均風速は2m/s前後。</p> <p>■地形と自然 本市域の約半分は山地が占る。東部には、交野三山(交野山、旗振山、竜王山)、南部には妙見山など生駒山地東端の山々があり、市域の東側と南側を山に囲まれており、中央を「天野川」が北流している。また平野部は北西方向に広がる。平野部と山地の境界は明瞭で、日常生活の中で山々の姿が常に映り込むと言える。</p> <p>■地質 天野川は生駒山地を侵食し深さ数十m～百数十mの谷を刻み、交野市街地を含む幅約0.5km、長さ約1kmの谷底平野を形成し、主として砂質地盤からできている。一方、生駒山地は花崗岩からなり、西斜面は山地内に谷が発達している。</p>	<p>1-3 災害履歴</p> <p>■風水害 近年では、市内においても、平成30(2018)年の台風21号が接近した際、最大瞬間風速45.9m/sを記録し、建物被害516戸が発生。本市における近年の災害は、時間雨量が概ね20mm以上となった場合に浸水する箇所が生じ、概ね50mm程度になると浸水箇所が多くなる。</p> <p>■地震災害 本市に特に大きな人的被害をもたらした地震の明確な記録は残っていない。平成30(2018)年6月18日に発生した大阪府北部地震(マグニチュード6.1)では、本市でも震度5強を記録し、一部破損等の建物被害(1,025戸)が発生し、災害救助法が適用される災害となった。</p> <p>■活断層 市域内には、東北-西南方向に延長約11km交野断層がある。本市の周辺には、枚方断層、生駒断層、高船断層群、田口断層が分布。いずれも小規模であるが、市域に近く、これらの断層に起因する地震が起きた場合、本市域では相当の震度になると考えられる。</p>			
<p>1-4 歴史の変遷</p>					
<p>先史時代</p>	<p>古代</p>	<p>中世</p>	<p>近世</p>	<p>近代</p>	<p>現在</p>
<p>およそ2万年前の旧石器時代に人々が暮らしていた痕跡が認められる。</p>	<p>郡津地区においてその地名から交野郡衙(郡を管理する役所)が置かれていたと考えられる。</p>	<p>室町時代の交野は、河内国の守護の畠山氏に支配され、その家来の一人に私部城をよりどころとする安見氏がいた。</p>	<p>江戸時代の交野には8つの村(倉治・郡津・私部・寺・森・傍示・私市・星田)があった。</p>	<p>明治14年に交野は大阪府管下となる。明治31年に関西鉄道が全線開通(現JR片町線)。昭和4年に信貴生駒電鉄が開通(現京阪交野線)</p>	<p>昭和14年、交野村と磐船村が合併(交野町)、ついで昭和30年星田村と合併。行政能力の強化を図るため昭和46年に交野市へと移行</p>

第2章 「交野の文化財」に関わる取組みの経緯

<p>2-1 指定及び登録の文化財</p> <p>■指定文化財等(令和3年10月現在) 23件(国指定4、府指定4、市指定15) 5件(登録)</p> <p>■未指定文化財等(令和3年10月現在) 363件(美術工芸337、民俗19、記念物7)</p>	<p>2-2 文化財の調査</p> <p>■文化財調査の現状 ①古文書・美術工芸、②埋蔵文化財、③民俗文化財、④石造文化財の調査の実施、報告書の取りまとめを行う。なかでも仏像や彫刻、石造物などの美術工芸品の調査が進んでいるが近代以降については進んでいない。</p>	<p>2-3 文化財の保存の現状</p> <p>■指定文化財等 文化財保護法と府文化財保護条例、市文化財保護条例に基づいた文化財の指定による保存</p> <p>■未指定文化財 地区や個人による保存が現状(自然災害による棄損増)</p>			
<p>2-4 文化財の活用の現状</p>					
<p>■指定文化財等 ①建造物(重文)の公開、②『国登録有形文化財 交野市立教育文化会館保存修理計画案策定報告書』策定</p>	<p>■生涯学習 教育文化会館を拠点とした文化財に関する①講座・体験(平成6年度～)、②展示(平成7年度～)の実施</p>	<p>■学校教育との連携 ①社会科副読本『わたしのまちかたの』、②学習支援(展示室の見学や綿繰り体験等の市内小学校受入れ)</p>	<p>■情報発信 ①広報かたの、②文化財だより、③かたのスイッチ、④交野市歴史散策マップ・観光マップ、⑤交野巡礼</p>	<p>■文化財説明板等 令和3年時点で59基。行政以外に地区・所有者が管理しているものが多い。日本語表記のみで劣化も進行</p>	<p>■市内活動団体 交野古文化同好会、私市文化財保護推進委員会、私部城を活かし守る会、薬師寺保存会 など</p>

第3章 「交野の歴史文化」の魅力

3-1 「交野の歴史文化」の6つの特徴

交野の王	天野川	巨石信仰	交野の城	伝統的な町並み	近代産業
時代：古墳時代 指定文化財： 車塚古墳群（府史） 未指定文化財（指定候補）： 森古墳群（鍋塚古墳他）、 寺古墳群（塚穴古墳他）	時代：飛鳥時代～現代 指定文化財： 磐船峡（府名） 未指定文化財（指定候補）： 長宝寺跡、油絵大絵図（別館1F）	時代：平安時代～現代 指定文化財： 磐船神社巨石群（府名） 未指定文化財（指定候補）： 観音岩、獅子石屋、妙見宮	時代：戦国時代 指定文化財： 私部城跡（市史） 未指定文化財（指定候補）： 岩倉開元寺跡、小松寺跡、新宮山八幡宮跡	時代：江戸時代 指定文化財： 北田家・山添家住宅（国重） 山野家（国登）、星田村絵図 未指定文化財（指定候補）： 交野旧八村、村絵図	時代：明治～昭和時代初期 指定文化財： 教育文化会館・水辺プラザ土木遺産（国登） 未指定文化財（指定候補）： 原田式織機工場跡

第4章 「交野の歴史文化」の保存と活用に関する現状と課題

4-1 保存と活用の基本的な考え方	4-2 保存と活用に関する現状・課題について ～アンケート調査等の結果から導き出された課題～				
	文化財の把握	文化財の保存	文化財の活用	文化財の周知・啓発	人づくり・仕組みづくり
「交野の歴史文化」を未来へ継承する必要があるため、その担い手となる市民のニーズをアンケート調査等により把握する。	課題：個別の文化財等の調査の実施、文化財の情報等の体系的な把握・管理、文化財等の総合的な再整理	課題：歴史的な町並みの保全、未指定文化財の指定、指定文化財の適切な維持・保全、所有者や消防本部との連携、盗難対策	課題：体験型プログラムの充実や展示の見直し、外国人観光客の受入れ体制の整備、案内誘導に向けたサイン等の検討	課題：ホームページ等の情報発信の見直し、地域の歴史文化と文化財の周知、小学校へのオンライン学習支援に向けた整備	課題：文化財所有者の高齢化などへの対応、担い手不足への対応や活動支援、他市との連携エリアの拡大

第5章 「交野の歴史文化」の一体的・総合的な保存と活用

5-1 一体的・総合的な保存と活用の考え方

本計画の基本理念：自然と歴史を通じたまちの発見[生涯学習基本計画 基本方針4] + **★ 残して、活かそう交野の文化財、つなごう未来、次世代へ ★**

5-3 関連文化財群の保存と活用 ～6つの「交野の歴史文化」の特徴ごとにテーマを持たせ、ストーリーを構築～

①交野の王墓と鉄器生産	②天野川と七夕伝承	③巨石信仰と社寺伝承	④交野の城と安見氏の記憶	⑤徳川支配と伝統的な町並みの成立	⑥近代産業と鉄道の発展
					
主人公：鉄の王（肩野物部） ストーリー：天から天磐樟船で降臨した鉄の王の物語	主人公：交野郡司（宮道氏） ストーリー：交野郡衛に及んだ貴族文化の物語	主人公：弘法大師（空海） ストーリー：秘法を唱えると北斗七星が降星した物語	主人公：安見右近 ストーリー：右近の砲術家としての活躍と凋落の物語	主人公：家康と北田家・山添家 ストーリー：徳川の世に交野の代官・庄屋が活躍した物語	主人公：金澤泰治・原田元治郎 ストーリー：二人の偉人が交野の産業を興した物語
関連する未指定文化財： 倉治古墳群、清水谷古墳、森遺跡、上私部遺跡、私部南遺跡、磐船神社・哮ヶ峰の降臨伝承	関連する未指定文化財： 長洲の伝説、東高野街道機物神社・逢合橋の七夕伝承、天の川七夕祭	関連する指定文化財： 獅子窟寺（国宝）・八葉蓮華寺（国重） 関連する未指定文化財： 麩千手寺、星田寺、小松寺跡、八丁三所・大師堂	関連する未指定文化財： 私部南遺跡、新宮山遺跡、無量光寺、光通寺、須弥寺、室町殿日記、右近の小説	関連する指定文化財： 神祖宮趾之碑（市有） 関連する未指定文化財： 徳川家康ひそみの藪、祭礼、だんじり、交野節	関連する未指定文化財： 加賀田用水路、加賀田用水記念碑、信貴生駒電鉄路線予定地跡

5-4 文化財保存活用地区の保存と活用 ～「交野の歴史文化」が3つ以上重なる旧集落（2地区）に設定～

①私部地区	②星田地区
構成文化財：私部城／私部南遺跡／出が城遺跡／私部村（古民家と土蔵）／北田家住宅／山野家住宅／原田織機工場跡／私部南遺跡／光通寺・無量光寺／住吉神社大鳥居／渡御行列／だんじり／札ノ辻橋／市場橋 文化財の特徴：交野の城、伝統的な町並み、交野の近代産業 関連文化財群のテーマ：①交野の王墓と鉄器生産、④交野の城とその記憶、⑤徳川支配と歴史的町並み群の成立、⑥近代産業と交野の発展	構成文化財：妙見宮／新宮山／星田村（古民家と土蔵）／星田村絵図3枚（市指定）／星田村地詰帳（市指定）／整辺刷子工業／妙見宮／星田寺／薬師寺／星の森神社／光林寺／大師堂／星田寺境内遠藤俊親の墓／義晴地蔵寺／新宮山旗掛け松／神祖宮趾碑／伝徳川家康ひそみの藪／十三仏石仏 文化財の特徴：巨石信仰、交野の城、伝統的な町並み、交野の近代産業 関連文化財群のテーマ：②天野川と七夕伝承、③巨石信仰と社寺、④交野の城とその記憶、⑤徳川支配と歴史的町並み群の成立

第6章 「交野の歴史文化」の保存と活用に関する方針と措置

6-1 保存と活用に関する方針・措置

方針1：「交野の文化財」の把握	方針2：「交野の文化財」の保存	方針3：「交野の文化財」の活用	方針4：「交野の文化財」の周知啓発	方針5：「交野の文化財」の保存・活用のための人づくり・しくみづくり
措置1：文化財調査の実施 措置2：総合的な調査結果の整理	措置3：文化財の維持保全の推進 措置4：文化財の防災・防犯対策	措置5：体験型プログラムの充実 措置6：展示や案内の見直し・充実 措置7：観光施策との連携	措置8：情報発信の充実 措置9：文化財の周知 措置10：学校教育との連携	措置11：担い手確保や体制づくり 措置12：広域連携の体制整備

6-2 保存と活用に関する事業

基本理念の実現のために、文化財の保存と活用に関する課題を捉え、文化財を総合的・一体的に把握する方法も用いながら、市民、団体、地域、文化財所有者等と連携を図り、実現するための10年の計画期間で実施する20事業のうち、重点事業として次の6事業に取り組む。

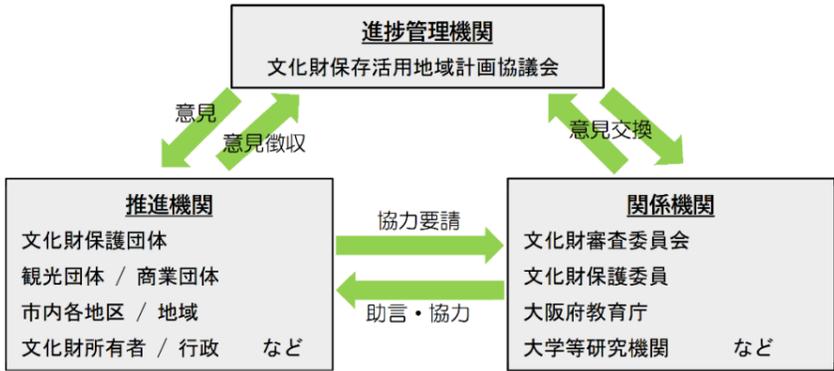
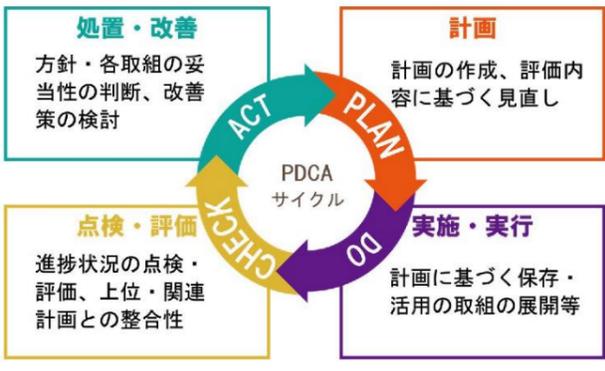
重点事業1	重点事業2	重点事業3	重点事業4	重点事業5	重点事業6
市史編纂事業	文化財の指定の検討	教育文化会館展示見直し	観光・商業団体などと連携した文化財イベント	学校支援の実施	後継者育成など地区や活動団体への取組支援

6-3 関連文化財群の保存と活用の方針					
①交野の王墓と鉄器生産	②天野川と七夕伝承	③巨石信仰と社寺伝承	④交野の城と安見氏の記憶	⑤徳川支配と伝統的な町並みの成立	⑥近代産業と鉄道の発展
課題 ：古墳群や鉄器生産跡地等の文化財の魅力付け、関心の喚起 方針 ：森・車塚・寺古墳群を古墳時代の歴史入門拠点として位置づけ、王墓めぐりの拠点として活用	課題 ：未利用の天野川の自然・歴史・文化資源の活用、魅力付け、その情報発信 方針 ：天野川の七夕伝承の周知、それに関する市域内外の団体等との連携した多様な取り組み	課題 ：関連文化財群の存在との周知とその価値の認識 方針 ：巨石・磨崖仏・弘法大師の伝承地などを活用し、巨石信仰めぐりなど、山地区部の文化財の迫力を体感できる探訪機会を創出	課題 ：市の中心部に残る私部城跡の潜在的な魅力を地域のまちづくりや活性化に活かす保存・活用 方針 ：私部城を活用し、三大砲術「安見流」のPR、関連団体と連携した戦国・近世に関するイベント、ツアーの開催	課題 ：徳川家康ゆかりの地のPRと近世の佇まいを残す町並みの維持 方針 ：徳川家康ゆかりの地としてイベントや情報発信、町めぐりなど近世の佇まいを残す星田の町並みを活用した観光機会の創出	課題 ：近代産業化において重要な役割を果たした建造物群、跡地、当時の生産機械などの周知とこれらの有効活用 方針 ：教育文化会館の展示スペースの見直し、倉治の豪傑・金沢泰治氏に関する近代産業に関する展示、イベント開催

6-4 文化財保存活用地区の活用の方向性	
(1) 私部地区保存活用地区の活用の方向性	(2) 星田保存活用地区の活用の方向性
課題 ：文化財の来訪者の利便性の向上や地区内の文化財の紹介や周遊コースの情報提供 方針 ：交野駅を基点とした周遊コースの設定、誘導サインや文化財の説明板の設置の検討、文化財、軍記、小説などの紹介、活用に向けた未整理の古文書調査の実施	課題 ：文化財の来訪者の利便性の向上や地区内の文化財の紹介や周遊コースの情報提供 方針 ：周遊コースを設定し、そのルートの誘導サインや文化財の説明板の設置の検討、徳川家康関連の史跡のPR

6-5 文化財の防災・防犯	
(1) 防災	(2) 防犯
<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくりとして、防災意識の向上と防災施設等の整備 ・災害時の被害状況の報告、被害拡大の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪リスクに晒されていることの周知 ・日常的な利用の促進 ・防犯設備の向上を促す ・不審な状況があった場合の報告、可能な範囲での復旧の道の模索

第7章 計画の推進体制と進捗管理

7-1 保存・活用の推進体制		
(1) 保存・活用の推進体制 (図：実行・関係期間等)	(2) 計画の推進管理 (図：PDCAサイクルによる進行管理)	(3) 指標の設定
		<p>本計画に定める文化財の保存と活用の取組の効果を検証する指標として、計画期間中における取組の進捗状況を把握するため成果指標を設定</p>